

次に、文部科学省の調査によると、学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合は6.5%となつています。NHKテレビの朝の番組でも発達障害について取り上げています。そこで、発達障害教育の推進に向けた取組及び成果と課題について質問しました。

教育委員会では、ふっさ子一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばすために特別支援教室の指導を開始するとして平成29年4月からすべての小学校に特別支援教室を設置しました。また、平成30年4月から中学校に自閉症・情緒障害特別支援学級が開講します。

いよいよ4月より小学校における道徳教育の教科化が始まります。2月2日に第五小学校において「東京都道徳教育推進拠点校 福生第五小学校 研究報告」が行われました。そこで、教科化への背景並びに市内の小中学校において教科化に向けた取り組み状況について質問しました。

教育委員会として、福生市全ての教員が、改訂の背景、道徳の目標を理解し、その特質を踏まえた授業改善を図ることができるよう取組を実施することです。

行政視察報告

正和会行政視察

嘉手納町(沖縄防衛局)、那覇市(全国都市問題会議)

11月8日から10日にかけて沖縄県那覇市を視察しました。

初日、沖縄防衛局にお邪魔し、主に米軍基地対策について講義を受け、屋上から米軍嘉手納飛行場の一部を見ながら説明を受けました。説明を受ける間もF-15が編隊で飛び立ちます。その後立ち寄った「道の駅嘉手納」では飛び立ったF-15が真上を通り過ぎ、その爆音に驚かされます。

翌日から2日間、那覇市の沖縄県立武道館において、「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略ー新しい風をつかむまちづくりー」をテーマに、全国市長会、後藤・安田記念東京都研究所、日本都市センター及び那覇市との共催により、第10回全国都市問題会議が開催され、市長、議員を中心に2200名を超える参加者を得て開催されました。

1日目は、主催者を代表して松浦会長の挨拶に続き、東京大学史料編纂所教授の山本博文氏から「多様性のある江戸時代の都市」と題した基調講演の後、開催市の城間・那覇市長が主報告を行いま

した。

その後、首都大学東京大学院人文科学研究科准教授の山下祐介氏、蝦名・釧路市長、さらに、琉球大学観光産業科学部長・教授の下地芳郎氏がそれぞれ一般報告を行いました。

2日目は、早稲田大学理工学術院教授の後藤春彦氏をコーディネーターとして、山岸・勝山市長、染谷・島田市長、株式会社能作取締役産業観光部長の能作千春氏、まちとひと 感動のデザイン研究所代表の藤田とし子氏、沖縄文化芸術振興アドバイザーの平田大一氏によるパネルディスカッションが行われました。

最後に、次期開催地の磯田・長岡市長から歓迎の挨拶を行った後、閉会あいさつが後藤・安田記念東京都研究所の新藤・理事長からあり閉幕しました。



全国都市問題会議会場

姫路市(全国市議会議長会研究フォーラム)

11月15日から16日にかけて、第12回全国市議会議長会研究フォーラムが姫路市で開催されました。

基調講演、パネルディスカッション、課題討議といったものパターンです。終わって「姫路市/文化財活用事例視察」に参加しました。特に姫路城(白鷺城)は一昨年修理が終わり、その白さが輝いています。文化財でありながら観光資源として大いに役立つと感じました。

編集後記

今年選挙がありません。ゴールデンウィークものんびり過ごすことができました。

一般質問で発達障害について調べたところ、UD書体(ユニバーサルデザイン・フォント)が提供されていることを知りました。読字障害(ディスレクシア)のある方にとって読みやすいのだそうです。(株)モリサワから無料で提供されているとのことなので早速ゲットしました。

この号はUD書体を使ってみました。比較のため、このページの最下段のみ従来のMS書体を使いました。さて、皆さまにはどちらが読みやすいでしょうか。

